

I 蚕糸業の概況

1 養蚕業の動向

平成19年度における養蚕業は、養蚕従事者の高齢化及び後継者不足による労働力事情等により、飼育中止や掃き立て規模を縮小する農家が増加したことから、養蚕農家数、掃立卵量及び収繭量とも前年に比べて大幅に減少した。

- (1) 養蚕農家数は1,169戸で、前年に比べて176戸(13%)減少した。
- (2) 桑栽培面積は2,363ha、桑使用面積は1,172haで、前年に比べてそれぞれ302ha(11%)、229ha(16%)減少した。
- (3) 飼育箱数は12,511箱で、前年に比べて2,401箱(16%)減少した。
- (4) 箱当たり収繭量は34.6kgで、前年に比べてやや増加した。
- (5) 収繭量は433tで、前年に比べて193トン(30%)減少した。
- (6) 1戸当たり飼育箱数は10.7箱、1戸当たり収繭量は371kgで、ともに前年よりやや減少した。

(資料「平成19年度蚕業に関する参考統計」生産局生産流通振興課調べ)

2 製糸業の動向

平成19年度における製糸業の動向は、原料繭の減少、生糸価格の低迷により製糸設備の運転率及び生糸生産量は前年に引き続き減少した。

- (1) 器械製糸工場数(19年12月末の運転工場数)は、2工場で前年同。
- (2) 生糸生産量(19年度)は1,747俵で、前年に比べて209俵(10.7%)減少した。

3 生糸の国内需給及び価格の動向

19年度の生糸需給についてみると、生産は1,747俵と前年比10.7%減少し、機構における外国産生糸の買入れ及び売戻しは、国内の絹製品の需要減少などによって、1万3,208俵(実需者輸入分1万3,208俵、一般者輸入分なし)と前年に比べて15.2%の減少となった。

国産生糸の市場価格は、かつては輸入生糸価格を上回って推移してきたが、そのシェアの激減による価格形成力の喪失、品質格差の縮小等により、19年度は概ね3,000円近辺と下回って推移した。